

# 第 8 回農業塾 大原先生の講義

## 「農業における自然と人間の関係性」

### 1 自然とは

- ・自然とは、人為によらず存在する天体、動植物、水、土、空気のすべてを指す。
- ・自然にはシゼンとジネンの読み方の差があり、後者は物事がおのずからそうなっていくさまを指す。

### 2 「自然」の時代によらえ方

- ・ヨーロッパ 16 世紀ごろは、天文学者・物理学者は天界・天体物だけを「自然」と呼び、生物学者・医学者は生命界・生物だけを「自然」と呼んだ。
- ・17～18 世紀ごろから、全体をとらえたものが「自然」と認識されるようになった。
- ・人間がどのように考えるかにより、「自然」のとらえ方は様々であるが、どのようなとらえ方にしてもすべて人間主体の価値観である。

### 3 自然のプラス面とマイナス面

- ・自然とは、良いのか悪いのか、ということについて、両面があるといえる。
- ・プラスの面では、きれいな水や空気、そこで生産される農産物は自然の恵みであるとし、また自然の持つ多面的機能による国土保全や景観維持など多岐にわたって恩恵を受けている。
- ・マイナス面では、台風による水害、地震など自然災害、冷害や干ばつなどの異常気象、口蹄疫や鳥インフルエンザなどの病原菌の発生など、これも多岐にわたり人間の脅威として存在している。

### 4 農業における人間と自然の関係

- ・相互依存的共生関係といわれるものが、作物を育て、家畜を飼育する営みのことである。  
—作物の生育力を生かす条件作りを人間が自然の中で行い、その収穫を得る関係である。
- ・相互排除的競合関係といわれるものが、自然界の中にあつて人間にとって意図しないで脅威になったりするものの存在である。  
—雑草や、病原菌、害虫などがこれにあたり、それを人間は排除しようとする。
- ・棲み分けの共存関係といわれるものは、人間と野生動物が人里と奥山で住み分けているような関係である。  
—人間に直接関係しないところにおいては、人間が意図しないものであつてもそれを排除しようとせず、そのなりゆきを自然に任せようとするものである。